

小兒の病氣に就て

醫學博士 三輪 信太郎君

私は子供醫者でありまして、其上に天性子供が好んでございます夫故少し不愉快なときでもあれば病室へ往つて病人を見れば癒る、それでなければ子供の樂しく遊んで居る處へ行けば氣分が晴れくするといふ程子供好でございまして、自分も許し、人にも其點で許されて居ります。其私今日は幼稚園のことに從事なさる、方々と茲に會しましたから、私は非常に愉快に思ひます、皆様も定めし私と同様に子供が非常に好きなことであらうと信じますから、此子供好の輩が澤山集りまするは、子供の爲には幸福でございます、そればかりでなく私は十數年間相見ざりしところの舊友に、本會に參つた爲に會合するやうなことも出来て、其舊

友は矢張子供のこと就て文筆を執つて居る者で私に取つては今日のやうに愉快なる日はございませぬ、そこで私は今日此場へ出は出ましたが何をか話して宜いか自分には分りませぬ、只嬉しいといふ念に充たされて居るばかりでございまして、子供の智識を啓發する方の側に就ては、皆様の方が十分御經驗あらせられることでありますが、私は夫等の點に就てはとんと知らぬ人間で、只子供の病氣を癒したり、又は子供が病氣に罹らぬやうにといふ方を始終心配して居る者であります、夫故に貴嬢方の御承知の子供の智育の點に就ては私是一向申上げるだけ智識を有つて居りませぬ、それで私は自分の職掌の醫者といふ側で子供に關係することを申上げて皆様の御參考に供したいと存じます。

子供の何者たるやを解釋致しますると、「大人は子供に對する者にて子供は大人よりは身體が小さいもの」それ丈では満足出來ませぬ、尙ほ説明しますれば、「大人はもう成長し終つて居るが子供はこれから成長せんとする者である」故に大人は自分が成長し終つた身體を保存して行けばそれで宜しのでございしますが、子供の方ではこれより成長して行かうといふ者故、只保存する丈では濟みませぬのでございします、從來成長し來つたところのものを保存すると同時に、これより漸々成長して行くといふことがあります、私は自分の田へ水を引くのではありませぬが、生理上から申上げますると、子供は大人より二倍の問題を此際に有つて居ります、もう一度繰返しますれば大人は成長し終つたもの故、只其身體を保存して行けば宜しい

が子供の方はこれまで成長し來つた分を保存するのみならず、それと同時にこれから育つて行かうといふ方へ力を用ひなければならぬ、それ故大に子供の方が大人よりは活動するものでございします、又子供は大人よりも二重の問題を有して居りますが、併し大人の様に自分の分別などといふことは勿論ありませぬ故に、少し重い病氣に罹つたときでも、それにとんと構はんで丈夫なときと同じようにやつて居る様な姿ですが、大人の方はそれに反して、少し熱でもあれば直に家に引込んで寢て居る、夫故に小供は大人程分別はないが重い二重の問題を有つて居る、成長し終つた大人はもう長育しなくなるばかりでなく樹木が段々古くなりますれば自然に枯るゝ如くに朽ちて了う、それは何程豪い人でも詮方がない、それで子供が跡の

代表者となるのでございますから、子供といふものは國家の爲に非常に大切なるものである、此子供が自分の家にある時分には其両親たる者は自分の極く近い義務として此子供の爲に心配しなければならぬのでございます、併ながら両親たる者が自分で始終子供を育上げるといふ譯には行かず、智識或は其他の點に於て幼稚園などへ入れる、今日待合せて居る中に一寸承りましたが、此方の幼稚園などでは三歳から六歳までの子供を取らるゝさうでございませう、御承知の通り子供は産れたての中から營養に不適當の事があつて（此營養といふことに就て一寸お話を間に介みますれば、お母さんの乳で育でますのが天然營養であつて、それからお母さんの乳が出ないとか、或はお母さんから社會上の交際の爲に自分の子供に乳を吞すこと

三十八
 が出來ぬとかいふ場合に、天然營養を廢して人工營養にするのであります、それで此天然營養に依ては子供は育て易いのであります、人工營養に據る場合が随分ありましてこれは多く育ちが悪いです）下痢を起したり或は風を引いたりする、大人では差したることもありませんが、子供はそれ等が原因になつて取返しに付かぬやうなことになる者が澤山あります、天死する者は初生兒時代に極く多うございますが、それが漸くどうかかつか總ての困難を切抜けても三歳位になるときが、子供は極く大切なる場合であります、此三歳から大切なる場合の子供を扱ふ幼稚園の仕事に従事なさるゝ方のお集りでの席でお話致すのでございますが、三歳から六歳位までにも随分色々な病氣に罹り易うございまして、又大人よりも抵抗力は

遙に弱うございます、勿論これは十分御注意になつて居ることでございませうから、私が尙此處で申上げるのは失禮な次第ではございますが、幼稚園では只單に智識の方を啓發したばかりでは、お預りになつたお方が十分に其義務を盡しなすつたと賛辭を呈するにはまだ早いだらうと思ひます、幼稚園に従事なさる方々が十分に其義務を盡された、見事に自分の立場をお固めなされたとお賞め申すことの出来るのは、どこまでも智識其他總てのことに御注意あつて、其上にお預りの子供が健康にお育ちになつたならば、勿論十分御注意あつても其子供の體質が弱くてはそれは仕方がありませんが、併ながら子供は保管者の不注意の爲に不時に病氣を惹起することがありますから、子供の健康上のことも十分に御注意遊ばしてこそ初め

て其方にお賞め言葉を差上ぐる事が出来ると思ひます、併ながら此幼稚園に従事なさる方々は醫者でないから健康のことに御注意なされると言つてもさう別段深いことで醫者に望む如きことを望むといふのは無理であらうと思ひますが、普通一般の人の目に着くやうな事柄を見落しなさらぬ様になさつたならば、随分子供さんの爲には幸福なることゝ存じます、子供さんばかりでなく其両親の爲にも亦其一家の爲にも、廣く言へば國の爲にも大なる功績になるだらうと存じます。今私は是より御注意なすつて置かれたき、平易にして行はるゝことを申上げます、子供のことを能く若き樹木に譬へます、子供と云ふ若木には二つの大青虫がつきます、それは咳嗽と下痢とでござい、まず咳嗽に就て申上ぐれば、大人では風

を引いて咳嗽ゐるを棄て置くとも多くは療ゆるも子供さんではさうはいかぬ、直ぐそれが他の病になりません、勿論三歳以上の子供になると左程のことはありませぬけれども、併ながら大人程の抵抗力があまりませぬ、故に少し油断すると遂には肺炎など、いふ病氣も矢張咳嗽がそれを表示しますから咳嗽は非常に御注意なさらなければなりません、此頃東京に百日咳が流行して本郷區邊などには随分多いやうに思ひます、私が昨日或病家へ参りました、兄さんが以前から百日咳に罹つて居たのに拘はらず、一緒に妹を置いたら遂に感染したのでございませぬ、其兄さんは何處から感染したのでわらうといふ話から段々聞いて見ますと、兄さんは毎日或る幼稚園へ通つて居たんださうです、

その幼稚園に通つて居るお子さん達が多くこんく咳嗽をなすつて居たといふことを、附添つて送迎をする者が話したといふことであります、百日咳のこに就ては随分これまで皆様のお聞きになつたことも多くわらうと思ひますから、私が今それを委しく申述べたところが此席に適當する譯でない、故に一寸素人の方にお話して分る百日咳の徴候を申しますれば、其咳嗽は引續いてこんく〜と跡から〜と出るのですこんく〜と續いて出て顔が眞赤になつて、さうしてこんく〜と出る咳嗽の即ち連呼氣の間に折々中へ引く深吸氣を爲す、それを醫者の方で「レブライゼー」Reiniseといふのです、咳嗽が續いて出て顔が眞赤になり、甚しいときは食物などを吐くやうなことがあつて、傍き目に至つて苦痛さうに見ゆるも、咳嗽が出ないとき

には全く病氣でないときと同じで、元氣が非常に宜くて飛び走つて居る、今一寸申上げたのは百日咳の極く、模範になる咳の模様でございます、此百日咳といふものは今日までの研究の結果にては病毒が未だ分りませぬ、一人の子供がこれに罹つて居ると他の子供に傳染して行くものでありませぬ、無害なるものであれば如何程傳染しても心配はありませぬが、百日咳の後には甚しく人の恐怖する結核病を惹起すること往々あります、前陳の次第故に幼稚園従事の方々は、其お預りの子供さんの中に咳嗽をする子供があるときは、其ことを両親に注意をしてやるといふ位のお手数は是非なさらなければならぬと思ふ。一人の子供が百日咳に罹りつゝあるのを知らずに、其子供さんその他子供さんと一緒にして置くと大勢に感染します

例へば此處に三十人のお子さんの居る幼稚園がわるとすれば、其中の一人が百日咳に罹つて居ればそれが皆それにに感染又感染すると非常なものになります、夫故に咳嗽は子供の爲には若樹に生ずる一つの大きな青虫のやうなものであると言はなければなりません。

それから今一つの大青虫は下痢であります、此下痢に就ても亦此處で一言申上げて置きたいのは、此頃東京で赤痢が流行しつゝあります赤痢の類似症（赤痢と診断したものでなく赤痢と紛らはしい様な便を漏らした者）でも見たならば、早速届けて出よといふことでございます、此赤痢の徴候に就て少し申上げますれば、便が通常の餡のやうなねばくして粘液に血が混つて赤くなりて居る、併ながら子供に就ては必ずしも血が混つて居るとは

言へませぬ、館の様なものばかりのこともありま
す、さうして子供が厠に往つても十分出来ませぬ
で、跡からくと度々子供が通ふやうな状でござ
います、幼稚園へ来て居らるゝ子供の中で便所へ
度々通ふ方がありましたら、それを赤痢か何だか
といふことを貴嬢方に御診断を請ふといふのは勿
論ちつと無理な注文でございしますが、此子供はふ
腹が大變悪いからといふことを両親の許へ注意を
なすことは必要であると思ひます、赤痢でなくと
も他の病氣で腹が下るのであつても、兎に角子供
に取つては危険でございしますから、厠へ度々通ふ
ことがあれば御注意あつて然るべきことと思ひま
す、近頃は學校醫も置かるゝとになりしました、進
んで幼稚園にても矢張醫者を置いて、殊に其醫者
は小兒科に堪能であるものを置かなければならぬ

ことは今私がお話申しましたことなどに依て分る
ことであります、併し今日はそれ程のとまではな
かゝ手が届かない場合でございしますから、少く
とも幼稚園をお預りになつて子供の世話をなさる
方々は、今日申しました咳嗽とか下痢とかいふこ
とには十分御注意下さるゝ必要であらうと思ひ
ます、此御注意は大變に子供さんの爲になり、子
供さんの爲になることは國家の爲になること、考
へます、終に向一つ申上げて置きたいことは子供
さんの顔色が悪く首の周圍にグリグリの多いもの
は瘰癧質でございしますから、さういふ子供さんに
は頭を使ふやうなことを無闇に教へ込まないやうに
御注意ありたしつひ自分の職掌としてやつて居る
ものでございしますから、失禮を願はず色々尾籠なお
話を申上げましたことは偏にお許を願ひたうござ

います、御同様子供の事につき心血を灌ぐ者は、些細の事にも注意せられんを、此些細の事に留心すると否とは繋る所大なるを申述べん爲め、醫師として心付く點一二を擧げて諸嬢の清聴を汚せる而已

(此一篇は嘗て、本會に於ける同博士の演説筆記なり)

貞一の日記

(拔萃) (明治廿六年五月廿一日生男兒)

その母

明治廿七年十月卅日 父母とばあやに伴はれ 芝白金の熊代氏を訪ふ、その一家族とうちつれ 芝浦の海水浴に行く近頃になき 上機嫌にて、海を見晴したる二階にて、遊ぶ、盆の上の茶碗を三つ五つ重ねてはくづし、將棊の駒を拾ひ

ては入れ 身体こそ動さね 手はいろくに働きて 面白さうなり 曇りたる空の 時々雲破れ 日の光さして 室の中明くなれば アツキくと大聲にて指さす、風寒し、夕になりて 電車にのりて歸宅す

便通 なし

食事 全前

睡眠 十二時間

十一月三日 母に手を曳かれ 門の前より 金刀

比羅神社の方へ一町ばかり歩む

十一月四日 母と國手小原先生に、行きしに 病

氣もはや宜しければ 診察も今日にて よろし

との事に、大喜びにて歸る。

便通 三回

十一月五日 元氣大に宜し マツチの火を見て